

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	現代の国語	学年	1 年	類型	共通
単位数	2	教科書	ちくま現代の国語（筑摩書房）				
副教材	『ちくま評論入門』（筑摩書房）						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （１）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２）論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 （３）言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、読書に親しみながら、言葉を通して積極的に他者や社会と関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
------	-------------------------------------	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	問うこと、語ること	『私たちにはなぜヒーローが必要なのか？』 村田沙耶香	○	○	○	第 1 回
	5月		『サイエンスの視点、アートの視点』 齋藤亜矢				
	6月	ことばは世界をつくる	【参考】『一般化のワナ』 苫野一徳 『ことばとは何か』 内田樹	○	○	○	
	7月	主張を読み取る	『境界』 川上弘美 『羅生門』 芥川龍之介 『デジタル社会』 黒崎政男 『開かれた文化』 岡真理 『システムと異変』 中屋敷均	○	○	○	
2 学 期	8月	自分のことばで伝える	『ことばがつくる女と男』 中村桃子	○	○	○	第 2 回
	9月		『誰かの靴を履いてみること』 プレイディみかこ				
	10月	話し合いから議論へ	『贈り物と商品の違い』 松村圭一郎 『〈私〉時代のデモクラシー』 宇野重規	○	○	○	第 3 回
	11月	前提を疑う	『良識派』 安部公房 『人新世における人間』 吉川浩満	○	○	○	
3 学 期	12月	受け止めること、伝えること	『失われた両腕』 清岡卓行 『魔術化する科学技術』 若林幹夫 『マルジャーナの知恵』 岩井克人	○	○	○	第 4 回
	1月	深層を探ることば	『記憶する体』 伊藤亜紗 『忘却への抵抗』 新井卓	○	○	○	
	2月	情報と社会	『「幸福」の概念的変容』 隠岐さや香 『身体、この遠きもの』 鷺田清一	○	○	○	
	3月	主張を論理的に伝える	『来るべき民主主義』 國分功一郎 『主体という物語』 小坂井敏晶 【参考】『アフガニスタンの診療所から』 中村哲 『リスクと近代社会』 大澤真幸 『贅沢の条件』 山田登世子 『名づけと所有』 西谷修	○	○	○	

学習の方法	授業では、知識・理解を深めるだけでなく、「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」能力を総合的に身に付けていくために、個々の自主的な発表の機会を多く取ります。教材によってはグループ学習を実施し、発表することもあります。また、評論教材では要約を実施し、自分でまとめる力を身に付けていきます。さらに、評論については、サブテキストを活用し、高度な読解力を養っていきます。年4回の定期考査や漢字小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（読書感想文、課題、ノート、学習プリント等）、小テスト（漢字テスト等）の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力、話す・聞く能力、語彙力、理解力などを総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	言語文化	学年	1 年	類型	共通
単位数	3	教科書	ちくま言語文化（筑摩書房）				
副教材	『ちくま小説入門』（筑摩書房）・『新明説総合古典文法』（尚文出版）・『新明説漢文 改訂版』（尚文出版）						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

評価規準	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	【思考・判断・表現】 論理的に考える力や深く共感し豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書により自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をしている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	古文に親しみ、古文の世界を味わう。	「古文を学ぶために」 古典文法の窓 1～3 『宇治拾遺物語』・『十訓抄』 「漢文を学ぶために」 「故事成語を読む」『韓非子』 『唐詩紀事』・『戦国策』・『淮南子』 『竹取物語』 『伊勢物語』 古典文法の窓 4 『土佐日記』 古典文法の窓 5	○	○	○	第 1 回
	5月	漢文を読むためのきまりを理解する。		○	○	○	
	6月	物語に表れた心情を読み取る。		○	○	○	
	7月	背景を考えながら作品の視点を解釈する。		○	○	○	
2 学 期	8月	背景を考えながら作品の視点を解釈する。	『更級日記』 『十八史略』 『日本外史』 『徒然草』 『方丈記』 古典文法の窓 6 『平家物語』 古典文法の窓 7 登鶴鶴楼・鹿柴・秋風引・江雪・涼州詞 望廬山瀑布・江南春・過故人荘・送僧帰日本 江村・八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九	○	○	○	第 2 回
	9月	描かれたことばと行動から人間像を読み取る。		○	○	○	
	10月	文章を手掛かりに作者の思いを読み取る。		○	○	○	
	11月	語りの文体が表す臨場感に触れる。		○	○	○	第 3 回
	12月	唐詩を通して心情を伝える表現を身に付ける。		○	○	○	
3 学 期	1月	語りの文体が表す臨場感に触れる。	『転換期の文学―「平家物語」の魅力』兵藤裕己 古典文法の窓 9 『檸檬』 『論語』・『老子』 『唐宋八家文読本』 『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』 古典文法の窓 8 短歌・俳句	○	○	○	第 4 回
	2月	散文を通して思索を深め、表現の可能性を探る。 思想を伝える表現の工夫を読み取る。		○	○	○	
	3月	韻文の表現から、ことばへの理解を深める。		○	○	○	
		詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める。		○	○	○	

学習の方法	授業では、古典や近代以降の文芸作品といった教材を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては、調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましよう。年 4 回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（課題、ノート、学習プリント等）、小テストの成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理総合	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	2	教科書	地理総合改訂版（山川出版社） 詳解現代地図 改訂版（山川出版社）				
副教材	新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院） 新地理要点ノート（啓隆社） 地理総合演習ノート（啓隆社） 新地理の研究（啓隆社）						

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。	【思考・判断・表現】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的課題の解決に向けて構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
------	---	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 地図とGISの活用				第1回
	5月	進化する「もう一つの地球」の描き方	○	○	○	
	6月	第2章 地理的環境の特色				
	7月	自然と人間が織りなすカラフルな世界	○	○	○	
2 学 期	8月	第3章 世界各地の生活文化				第2回
	9月	水が育む人々の多様な生活文化	○	○	○	
	10月					
	11月	第4章 地球的課題と経済協力				第3回
12月	相互に関連する地球的課題～SDGs	○	○	○		
3 学 期	1月	第5章 生活圏の諸課題				第4回
	2月	1 日本の自然環境と防災 世界地図でとらえる自然災害のリスク	○	○	○	
	3月	2 生活圏の諸課題と地域調査 地理の力で地域の魅力発見や課題解決 にチャレンジしよう	○	○	○	

学習の方法	教科書、地図帳、ワークブック等を活用して、地理に関わる諸事象について、学習内容の整理や様々な資料を使った問題に取り組みます。予習は当然のことですが、特に復習に力を入れましょう。（例：教科書を読む→問題を解く→もう一度教科書を読み、解けなかった内容を理解する）地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養うことを心掛けましょう。地球的な課題を広い視野から総合的に捉え、その解決方法を考察します。
-------	--

評価の仕方	・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。 ・授業態度やノート、プリント等の活用状況を点検し評価します。 ・長期休業中のレポートにより、諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能や、地理的課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	歴史総合 近代から現代へ（山川出版社）				
副教材	『ゼミナール歴史総合』（浜島書店）、『地図&年表で整理 歴史総合』（山川出版社）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 それぞれの歴史的事象が歴史の中でどのような意味をもって位置付くのか、近現代史は全体としてどのような展開をとげたのかを、多面的・多角的に捉えられている。	【思考・判断・表現】 これまでの歴史が、現代的な諸課題の形成に大きく関わっていることを理解し、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察できる。	【主体的に学習に取り組む態度】 持続可能な社会づくりの観点から、地球規模の諸課題や地域課題を解決するために、歴史の中から課題解決への糸口を見出そうと、主体的に考えようとしている。

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査			
			①	②	③				
1 学 期	4月	歴史の扉	・身近なものと歴史のつながりを理解する。			○	○	○	第1回
	5月	第Ⅰ部 近代化と私たち	・16世紀にはアジア各地で大帝国が成立し繁栄していたこと、同時期にヨーロッパ各国がアジアに進出し、世界的な規模で経済が発展していったことを理解する。 ・ヨーロッパで成立した主権国家と主権国家体制について、その特徴を理解する。			○	○	○	
		第1章 結びつく世界							
		第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・アメリカ独立革命やフランス革命の経過と革命の成果を理解し、その後の世界にあたえた影響を考察する。 ・イタリアとドイツの統一国家形成の過程をとらえ、時系列にそって理解する。			○	○	○	
	7月	第3章 明治維新と日本の立憲体制	・大日本帝国憲法の成立過程をふまえ、憲法の内容を理解し、その特徴を考察するとともに、大日本帝国憲法のもとで成立した制度や諸法典の内容や特徴を理解する。			○	○	○	
2 学 期	8月	第4章 帝国主義の展開とアジア	・列強のアジア進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。			○	○	○	第2回
	9月	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	・バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察する。 ・総力戦による社会の変化を理解する ・アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえ、大量消費社会の特徴を理解する。			○	○	○	
	10月								
	11月	第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌やファシズムの伸張、第二次世界大戦の展開などを基に、国際協調体制の動揺について理解する。			○	○	○	第3回
	12月	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	・第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、日本に対する国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察する。			○	○	○	
3 学 期	1月	第Ⅲ章 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済	・冷戦下の先進国の政治動向や脱植民地化とアジア・アフリカ諸国などを基に、国際政治の変容について理解する。 ・ソ連の「雪どけ」と西側への影響を理解し、東ヨーロッパ世界の動揺や中ソ関係の悪化を考察する。			○	○	○	第4回
	2月	第9章 グローバル化する世界	・アジア諸地域の経済発展、資源・エネルギーと地球環境問題などが世界経済に及ぼした影響などに着目し、市場経済のグローバル化の特徴などを多面的・多角的に考察する。			○	○	○	
	3月	第10章 現代の課題	・地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、その要因を理解し、どのように対応していけばよいかを考察する。			○	○	○	

学 習 の 方 法	教科書と授業プリントを核に授業を展開します。歴史用語を暗記するのではなく、「近代化」「大衆化」「グローバル化」という大きな社会変化が、どの時期に、どの地域でおこり、どんな社会変化を意味しているのかを考えることが重要です。予習は教科書にしっかり目を通し、授業に備えましょう。また、身の回りにある現代的な諸課題が、いつ、どのようにして発生したのかなど、日頃から意識すると、授業の内容がより一層理解できます。
-----------------------	--

評価の仕方	・定期考查において、授業で学習した基礎的事項（どの時期に、どの地域で、どのような）の理解度を評価します。 ・授業態度やノート、プリント等の活用状況を点検し評価します。 ・長期休業中の課題により、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能や、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	学年	第1学年	類型	共通
単位数	3・2・1単位	教科書	「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」（啓林館）				
副教材	問題集「改訂版 サクシード 参考書「NEW ACTION LEGEND		数学Ⅰ+A, 新課程 サクシード 数学Ⅱ+B+C」（数研出版） 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B」（東京書籍）				

学習目標	数学Ⅰと数学Aの学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識する。 （3学期は数学Ⅱを学習する。）
------	---

評価規準	【知識・技能】 数学Ⅰ, A, Ⅱの内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学Ⅰ, A, Ⅱの内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学Ⅰ, A, Ⅱの内容において、その考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	数学Ⅰ 第1章 数と式	○	○		第1回
	5月	第3章 集合と命題	○		○	
	6月	第2章 2次関数	○	○		
	7月	数学A 第1章 場合の数と確率	○		○	
2 学 期	8月	第2章 図形の性質	○	○		第2回
	9月	数学Ⅰ 第4章 図形と計量	○		○	
	10月	数学A 第3章 数学と人間の活動		○	○	第3回
	11月	数学Ⅰ 第5章 データの分析	○		○	
3 学 期	1月	数学Ⅱ 第1章 式と証明・方程式	○	○		第4回
	2月			○	○	
	3月	第2章 図形と方程式	○	○		

学習の方法	- 家庭での教科書の予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、復習します。 - 授業では、教科書と並行して、問題集（サクシード）の「重要例題」「問題B」「発展」を解きます。どうしても解けないときは、参考書（NEW ACTION LEGEND）を調べる、友人と研究し合う、先生に聞くなどして、必ず自力で解けるようにします。 - 家庭学習を計画的に毎日実行する習慣を身に付け、根気強く学習することが大切です。
-------	--

評価の仕方	- 定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 - 平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化学基礎	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	改訂版 化学基礎（数研出版）				
副教材	ニューステージ新化学図表（浜島書店） セミナー化学基礎・化学（第一学習社）						

学習目標	1 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 進歩する現代の化学の素晴らしさや面白さを化学の学習を通して理解する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 物質に関する事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	---	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4 月	第 1 編 物質の構成と化学結合 第 1 章 物質の構成 第 2 章 物質の構成粒子 第 3 章 粒子の結合	・ 物質は原子・分子・イオン等の微細な粒子からできていることを理解する。 ・ 成分としての元素の概念を理解する。 ・ 気体や液体、固体の性質を具体的に観察し、実験などを通して、結合の概念や物質の構造を理解する。	○	○	○	第 1 回
	5 月			○	○	○	
	6 月			○	○	○	
	7 月			○	○	○	
2 学 期	8 月	第 2 編 物質の変化 第 1 章 物質質量と化学反応式 第 2 章 酸と塩基の反応	・ 物質の構成粒子の質量の考え方「モル」を学び、化学反応式に基づく、反応の量的関係の計算に習熟する。 ・ 酸・塩基の性質や価数、また強弱と電離度の関係について理解する。また、中和滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれ酸・塩基の濃度を計算する。	○	○	○	第 2 回
	9 月			○	○	○	
	10 月			○	○	○	第 3 回
	11 月			○	○	○	
3 学 期	1 月	第 3 章 酸化還元反応	・ 酸化還元滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれる酸化剤・還元剤の濃度を計算する。	○	○	○	第 4 回
	2 月			○	○	○	
	3 月			○	○	○	

学習の方法	毎日の授業を大切に、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。 科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間でかまいませんから予習を確実に、自分が何をやるのか理解してから臨みましょう。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	1 単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説 新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
------	---

評価規準	【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。
------	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	事故の現状と発生要因				第 1 回考査
	5月	交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成				
	6月	応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法				
		日常的な応急手当				
	7月	【実習】心肺蘇生法、AED使用法				
2 学 期	8月	日本における健康課題の変遷				第 3 回考査
	9月	健康の考え方と成り立ち				
	10月	ヘルスプロモーションの考え方				
	11月	感染症の問題とその予防 性感染症とエイズ				
	12月	生活習慣病の予防と回復				
		運動・食事・休養と健康 がんの予防と回復				
3 学 期	1月	喫煙と健康				第 4 回考査
		飲酒と健康				
	2月	薬物乱用と健康				
	3月	精神疾患の特徴と対応				

学習の方法	教科書と副教材を中心に授業を行います。授業の中でそれぞれの内容に即して設定した学習課題を自らの手で調べるなどして、さらに理解を深めていきます。 また、学習した内容を単に暗記に留めるに終わらず、日常生活の中での実践力につなげて、自らが課題解決できる力を養っていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、課題学習の内容や提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。保健に関する知識理解及び興味関心の程度、日常生活における健康・安全に対する思考力や実践力などを総合的に判断します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	3 単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説 新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	体づくり運動	・東高体操や集団走を正確に身に付ける。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通し、その方法を学習する。		○	○	
	5月		・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。				
	6月	球技選択Ⅰ	・安全に留意する態度を養うとともに自らの体力に応じて学習する。	○		○	
	7月	体育理論	・体ほぐしの意義と体力の高め方について学習する。	○	○		
	7月	体づくり運動・ダンス	・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。	○		○	
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。		○	○	
	9月			○		○	
	10月	球技選択Ⅰ	・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。		○	○	
	11月	球技選択Ⅱ	・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。				
	12月	体育理論 球技選択Ⅱ	・スポーツの価値や役割、スポーツが及ぼす経済効果について理解する。	○	○		
3 学 期	1月	体づくり運動 持久走	・持久走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わう。	○		○	
	2月	球技選択Ⅲ 体育理論	・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。	○		○	
	3月	球技選択Ⅲ	・スポーツと環境問題について理解する。	○	○		

学習の方法	・本校独自の「東高体操」や「集団走」など、みんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切にして、授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	音楽Ⅰ	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	MOUSA 1（教育芸術社）				
副教材	NHK全国学校音楽コンクール2026課題曲（NHK出版）						

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、芸術文化と 幅広く関わる資質・能力を育てる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 音楽史や楽典等の知識をもち、楽譜を読むこと、深く聴くこと、より良く表現することにつなげて豊かに活動している。	【思考・判断・表現】 楽曲にふさわしい表現や解釈を探り、時代や様式、作曲の背景などに関連付けて課題に向き合っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 作品に向き合い、感受したり表現したりするために、自らの課題を設定して学習の進め方を工夫している。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考查
				①	②	③	
1 学 期	4月	1 校歌	・松山東高校校歌	○	○	○	実技テストや鑑賞ノート、学習事項の振り返り小テストを実施して評価します。
	5月	2 指揮法①	・レスピーギ「イタリアーナ」	○	○	○	
		3 和楽器	・薩摩琵琶「日本海海戦」	○	○	○	
	6月	4 混声合唱	・NHKコンクール課題曲	○	○	○	
	7月						
2 学 期	8月	5 混声合唱	・NHKコンクール課題曲	○	○	○	実技テストや鑑賞ノート、学習事項の振り返り小テストを実施して評価します。
	9月						
	10月	6 指揮法②	・ブルクミュラー「素直な心」	○	○	○	
	11月	7 指揮法③	・アーバン「短前打音」	○	○	○	
3 学 期	1月	8 創作	・順次進行をもとにメロディをつくろう	○	○	○	実技テストや鑑賞ノート、学習事項の振り返り小テストを実施して評価します。
	2月	9 指揮法④	・ムソルグスキー「展覧会の絵」	○	○	○	
	3月	（上記は主な学習内容） （鑑賞は年間を通じて実施）					

学習の方法	独唱曲や混声合唱に取り組む「歌唱」、指揮法を学び実技も行う「器楽」、小品をつくる「創作」が活動の大きな柱です。また、「鑑賞」の学習を大切にしており、年間を通して様々な演奏形態による音楽を聴き、演奏家や作曲家について学びながら鑑賞の記録を重ねていきます。 なお、夏期休業中には鑑賞レポート（ジャンルは自由）を課題としています。
-------	---

評価の仕方	定期考查は実施しません。実技テストと平常の取組（提出物・忘れ物・授業態度・意欲等）、夏期休業中の課題などを総合的に評価します。 1．2学期末、学年末の年3回の評価です。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	美術 I	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	美術 1（光村図書）				
副教材							

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
------	---

評価規準	【知識・技能】 多様な表現方法や画材の特性について色彩について幅広く理解している。表現をするための基礎的な技能が身に付いている。	【思考・判断・表現】 作品の制作意図に基づいて表現を工夫したり、画材や道具使い方を考えている。作品の背景や時代などを関連づけて課題に向き合っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 作品に向き合い、よりよい表現をするために、自ら考え主体的に取り組んでいる。
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	オリエンテーション	(絵画 表現)	○		○	単元ごとに作品・課題を評価します。
	5月	身近なものを描く					
	6月	アクリル絵の具で描く 色彩の基礎、配色の魅力	(デザイン 表現)	○	○		
	7月	伝えるデザイン①	(デザイン 鑑賞)	○		○	
2 学 期	8月	夏休み課題	(デザイン 鑑賞)	○	○	○	単元ごとに作品・課題を評価します。
	9月	伝えるデザイン②					
	10月	さまざまな描画材料・技法	(絵画 鑑賞)	○		○	
	11月	想像した世界を描く	(絵画 表現)		○	○	
	12月	私たちに問かける美術	(彫刻 鑑賞)	○		○	
3 学 期	1月	アニメーションをつくる	(映像メディア表現)		○	○	単元ごとに作品・課題を評価します。
	2月						
	3月	記憶に残る映像をつくる	(鑑賞)		○	○	

学習の方法	美術 I の授業は実技中心となります。楽しく活動しつつも、めりはりをつけて制作に集中しましょう。制作の技術だけでなく、言葉や文字での表現活動も大切にしましょう。日頃から、自分が「何を美しいと感じるのか」そして、「それはなぜなのか」を考えるようにし、自分を知ることが深い表現活動につながります。
-------	--

評価の仕方	定期考査は実施していません。作品点と平常の取組（提出物、授業態度など）を総合的に評価します。また、技術的な巧さだけに評価が偏らないよう、個々の成長の過程や度合いを大切にしています。各学期末、年 3 回の評価です。一つの課題の配点が大きいので未完成にならないように注意しましょう。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で特に評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	書道 I	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	書 I（教育図書）				
副教材							

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
------	---

評価規準	【知識・技能】 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表現している。	【思考・判断・表現】 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	1 書へのいざない	・書写から書道へ ・古典に基づく学習 ・楷書を知る（漢字のプラットフォーム） ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 ・論經書詩 ・篆書を知る（漢字の夜明け） ・篆刻			○	単元ごとに課題作品を評価します。
	5月	2 漢字の書 (1) 楷書の書風の捉え方（字形・構成）			○	○	
	6月	(2) 楷書の書風の捉え方（用筆・運筆）		○ ○ ○			
	7月	(3) 楷書の書風の捉え方（線質）		○	○	○	
	7月	(4) 篆書の書風の捉え方		○	○	○	
2 学 期	8月	(7) 行書の書風の捉え方	・行書を知る（次へとつなげる気持ち） ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・風信帖 ・条幅作品制作 ・隸書を知る（直線化と波勢の誕生） ・曹全碑 ・草書を知る（省略の極み） ・真草千字文	○			単元ごとに課題作品を評価します。
	9月				○		
	10月				○		
	11月			○	○	○	
	12月			○	○	○	
3 学 期	1月	3 仮名の書	・仮名を知る（和の言葉を表す文字） ・基本用筆、平仮名、変体仮名 ・連綿 ・蓬莱切 ・高野切第三種 ・漢字仮名交じりの書を知る（読みやすさと美しさの両立） ・漢字と仮名の調和 ・自分自身の表現を求めて	○ ○			単元ごとに課題作品を評価します。
	2月				○ ○ ○	○	
	3月	4 漢字仮名交じりの書		○	○ ○ ○	○	

学習の方法	本授業では、「表現」と「鑑賞」を柱として学習を進めます。楷書や行書を中心とした古典の臨書によって基礎的な技能を身に付け、作品のよさや表現の違いを鑑賞・対話を通して理解します。その上で、臨書で培った力を生かし、自らの意図をもって創作活動に取り組みます。 創作活動を豊かにするためには、日頃から自然の美しさや身近な人の小さな変化などに心を向け、感じ取る姿勢を大切にしましょう。生活の中で感性を磨くことが、表現の深まりにつながります。
-------	---

評価の仕方	定期考査は実施しません。作品点と平常の取組（提出物・ワークシート等・忘れ物・授業態度・意欲等）を総合的に評価します。 各学期末、年3回の評価です。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーション I	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	3 単位	教科書	CROWN English Communication I New Edition (三省堂)				
副教材	コーパス・クラウン総合英語 第 2 版 (三省堂)						

学習目標	・社会的な話題についてのわかりやすい会話やスピーチなどを聞いて、目的に応じて概要や要点を理解することができる。 ・社会的な話題についての説明文や意見文を読んで、目的に応じて概要や要点を理解することができる。 ・日常的な話題に関して、相手の意見を踏まえながら考えつつ整理して議論を続けることができる。 ・日常的な話題に関する経験や描写を、考えや気持ちを交えながら、話を整理して伝えることができる。 ・社会的な話題に関して、相手にわかりやすいように考えを整理して、意見を展開して書くことができる。
------	--

評価規準	【知識・技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて、日常的・社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
------	---	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	Lesson 1 Exploring Onomatopoeia	・日本語と英語のオノマトペの違いについて読む。 ・オノマトペの重要性について自分の意見を書く。 ・オノマトペの重要性についてグループで話し合う。	○	○	○	第 1 回
	5月	Lesson 2 Swimming against Adversity	・競泳選手である池江璃花子さんの人生についてエッセイを読む。 ・困難を経験する意義について話し合い、自分の意見を書く。	○	○	○	
	6月	Lesson 3 Hatching the Egg of Hope	・ある壁画アーティストの生き方と活動についてエッセイを読む。 ・「芸術が持つ力」についてスピーチを行う。	○	○	○	
	7月	Lesson 4 Turning off the Tap of Plastic	・海洋プラスチックゴミの回収活動についての記事を読む。 ・プラスチックゴミを減らすためにできる行動について話し合う。 ・プラスチックゴミを減らすためにできる活動についてプレゼンを行う。	○	○	○	第 2 回
2 学 期	8月	Lesson 5 Roots & Shoots	・動物学者ジェーン・グドール博士へのインタビューを読む。 ・世界をよりよくするために何ができるかについて、自分の意見を書く。	○	○	○	第 3 回
	9月	Lesson 6 Chat with Chatbot	・生成AIであるチャットボットへのインタビューを読む。 ・AIが社会に与える影響についてミニ・ディベートをする。 ・AIが社会に与える影響について自分の意見を書く。	○	○	○	
	10月	Lesson 7 The Papalagi Never Have Enough Time	・現代文明に関するスピーチを読む。 ・現代文明が人間の生活に与えた影響について話し合う。 ・「現代文明と人間の幸福」をテーマにスピーチを行う。	○	○	○	
	11月						第 4 回
3 学 期	12月						
	1月	Lesson 8 Not So Long Ago	・20世紀を振り返る写真展の解説を読む。 ・写真や言葉で歴史を伝えることについての会話を聞き取る。 ・歴史の一場面を象徴する写真から何が学べるのかを発表する。	○	○	○	
	2月	Lesson 9 Our Lost Friend	・大英博物館への文化財返還要求に関する記事を読む。 ・文化財の所有権について、自分の意見を述べる。 ・文化財返還問題をテーマに、ミニ・ディベートをする。	○	○	○	第 4 回
	3月	Lesson10 Good Ol' Charlie Brown	・漫画家であるチャールズ・シュルツさんに関するエッセイを読む。 ・人生の本当の成功とは何かについて話し合う。 ・話し合いの内容を参考に、エッセイを書く。	○	○	○	

学習の方法	- a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 - b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 - c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	---

評価の仕方	- a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 - b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 - c 音読テスト、インタビューテストなどの口頭テスト - d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅰ	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	be Smart English Logic and ExpressionⅠ（いっずな書店）				
副教材	コーパス・クラウン総合英語 第2版（三省堂）						

学習目標	- 与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。 - 与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。 - さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 テーマについて、必要な背景知識・語彙・表現を用いて自分の考えを述べる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手の質問に答えたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
------	---	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	Lesson1 Meeting People	・現在のことは現在形で表す	○	○	○	第1回
		Lesson2 Holidays and Weekends	・過去のことは過去形で表す	○	○	○	
	5月	Lesson3 Making Plans	・未来のことをwillやbe going toで表す	○	○	○	
		Lesson4 Experiences	・今とつながりがあることを現在完了形で表す	○	○	○	
		Lesson5 Study and Activities	・過去のある時点までのことを過去完了形で表す	○	○	○	
	6月	Lesson6 Food	・できることをcanを使って表す	○	○	○	
		Lesson7 School Life	・しなければならないこと・すべきことを表す ・学校の規則について話す	○	○	○	第2回
	7月	Lesson8 Daily Life	・wouldを使って依頼をする	○	○	○	
		Lesson9 Transportation and Buildings	・「される」「された」を受動態で表す	○	○	○	
2 学 期	8月	Lesson10 The Future	・「～すること」を不定詞で表す	○	○	○	第2回
	9月	Lesson11 Staying Healthy	・情報を加えるために不定詞を使う	○	○	○	
	10月	Lesson12 Convenient Products	・「だれかに～することを…」を不定詞で表す	○	○	○	
		Lesson13 Hobbies and Interests	・「～すること」を動名詞で表す	○	○	○	第3回
	11月	Lesson14 The World of Nature	・「～する」「～された」という状況を分詞で説明する	○	○	○	
		Lesson15 Trouble and Accidents	・「何かを～してもらう」を分詞を使って表す	○	○	○	
	12月	Lesson16 Inventions and Breakthroughs	・関係代名詞を使って名詞に説明を加える	○	○	○	
3 学 期		Lesson17 Community Service	・関係代名詞を使って情報を追加する ・ボランティア活動の必修化について意見を書く	○	○	○	第4回
	1月	Lesson18 Events and Customs	・関係副詞を使って名詞に説明を加える	○	○	○	
		Lesson19 Living Environment	・形容詞や副詞を使って比較する	○	○	○	
	2月	Lesson 20 Social Problems	・形容詞や副詞の最上級を使って「最も～」を表す ・日本が直面している問題について書く	○	○	○	
		Lesson21 Making a Wish	・動詞の過去形を使って仮定の話をする	○	○	○	
		Lesson22 Cross-cultural Communication	・接続詞を使って文をつなぐ	○	○	○	
	3月	Lesson23 Languages and Communication	・that節を使って主張や可能性のあることを示す ・意見を言う・相手の意見に反応する	○	○	○	

学習の方法	a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	---

評価の仕方	a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c 音読テスト、インタビューテストなどの口頭テスト d 単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	家庭	科 目	家庭基礎	学年	第 1 学年	類型	共通
単位数	2 単位	教科書	新 Agenda 家庭基礎（実教出版）				
副教材	家庭科ノート・調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科教育研究会編） 2026 最新 家庭 生活ハンドブック 資料&成分表& I C T（第一学習社）						

学習目標	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもや高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得し、主体的にウェルビーイングな生き方を目指して、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とします。
------	---

評価規準	【知識・技能】 生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、それらに係る技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生涯を見通して、生活の中から課題を設定して実践を評価し、考察したことを論理的に表現するなど課題解決力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
------	--	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	オリエンテーション	・学習内容・方法・評価を理解する。	○			第 1 回
		学校家庭クラブ活動	・学校家庭クラブについて理解する。	○			
	5月	1 章 自分・家族 ー多様化した社会に生きるー	・多様な生き方や青年期の課題、家族の機能について理解し、自立と共生、生涯を見通した意思決定の重要性等について考える。	○	○	○	
		3 章 高齢者 ー高齢者と生きるー	・高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解し、高齢者を支える家族や地域社会の役割について考える。	○	○	○	
	6月	4 章 社会福祉 ー支えあい共に生きるー	・くらしを支える福祉のあり方を理解する。	○			
		2 章 子ども ー子どもと生きるー	・子どもの発達、保育、福祉を通して、健全な発達を支える親や社会の役割を理解するとともに保育への関心を深める。			○	
	7月	ホームプロジェクト	・問題解決学習について理解し、実施計画を立てる。				
2 学 期	8月	ホームプロジェクト	・実施方法を検討し、実践、評価する。	○	○	○	第 3 回
	9月		・実施内容を発表し合い、相互評価する。				
	10月	5 章 食生活 ー楽しく安全に食べるー	・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、健康で安全な食生活について理解する。	○	○	○	
	11月		・食にかかわる情報を適切に判断し、実生活に生かす態度を身に付ける。				
	12月	2 章 子ども ー子どもと生きるー	・子どもの発達、保育、福祉を通して、健全な発達を支える親や社会の役割を理解するとともに保育への関心を深める。	○	○	○	
3 学 期	1月	8 章 消費・環境 ー消費社会を生きるー	・家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、消費者としての自覚を持つ。 ・現代の消費生活と環境のかかわりを理解し、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直す。	○	○	○	第 4 回
		7 章 住生活 ー人間らしく住むー	・住居の機能、住生活と健康・安全等に関する基礎的な知識を習得し、健康で快適な住生活を理解する。	○	○		
	2月	6 章 衣生活 ー選んで着るー	・被服の機能と着装、管理の知識と技術を習得し、健康で快適な衣生活を理解する。	○		○	
		生活設計ー自分の未来を描くー	・将来の生活への目標を立て、目指すライフスタイル実現のための生活を設計する。			○	
	3月	学校家庭クラブ活動	・地域のための活動内容を考え、実践する。			○	

学習の方法	・ワークシート、実習ノート、資料集等を用いて授業を行います。実験や実習にも取り組み、家庭生活や地域社会との関わりを意識しながら進めていきます。 ・講義、話し合い、発表、グループ活動等に意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中の問題点を見出し、自分で解決できる能力を身に付けていきましょう。 ・学んだ知識・技能を生かして、家庭生活での実践に取り組み、生活力のスキルアップを目指しましょう。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、平常の授業・実習への取組状況（授業態度・実習態度・学習活動への参加、協力状況など）、課題の内容・提出状況等を総合的に評価します。 ・ワークシート、実習ノート等の活用・整理状況を点検し、評価します。 ・プレゼン課題や長期休業中の課題レポート（ホームプロジェクト等）の内容・提出状況を多面的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---